

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

1 調査対象 令和6年度 6学年

2 調査実施日 令和6年4月18日（木）

3 学習状況調査結果の概要

【各教科の全体】

国語、算数とも全国平均を下回る結果となりましたが、年々改善している傾向が見られます。

【国語科の詳細】（数字は正答率を表しています）

学習指導要領の領域			全国	千葉県	本校
			知識及び技能	①言葉の特徴や使い方	64.4
		②情報の扱いに関する事項	86.9	86.8	○
		③我が国の言語文化に関する事項	74.6	76.1	○
思考力 判断力 表現力等	思考力	A話すこと・聞くこと	59.8	58.7	△
	判断力	B書くこと	68.4	66.9	
	表現力等	C読むこと	70.7	71.0	

○平均を上回ったもの △平均を5ポイント以上下回ったもの

昨年度と同様、「言葉の特徴や使い方」に関する問題と、「話すこと・聞くこと」に関する問題の回答率が他の項目と比べると大きく下回りましたが、「話すこと・聞くこと」に関しては改善が見られました。一方で「情報の扱いに関する事項」及び「我が国の言語文化に関する事項」の項目で全国平均を上回りました。

【算数科の詳細】（数字は正答率を表しています）

学習指導要領の領域		全国	千葉県	本校
	A 数と計算	66.0	65.9	
	B 図形	66.3	65.5	△
	C 変化と関係	51.7	52.1	○
	D データの活用	61.8	61.8	△

○平均を上回ったもの △平均を5ポイント以上下回ったもの

「B 図形」については、昨年度、一昨年度と比べると大きく改善しましたが、まだ全国と比べると課題が見られました。また、「D データの活用」でも課題が見られました。一方で「C 変化と関係」においては、全国よりも高い正答率をとりました。

【本校の傾向】

- 国語、算数共に、全国、県と比べて無回答率が低くなりました。粘り強く問題に取り組もうとする姿勢が見られます。一方で後半の問題の無回答率が徐々にながっていき傾向が見られ、児童質問紙の「解答時間が足りなかった」の回答に反映されていました。
- 国語のひらがなを漢字に書き直す問題や、述語に対する主語がどれか答える問題など、語彙や文法の基礎的な問題で誤答が多く、課題が見られました。
- 記述式の問題の正答率は改善傾向にあり、文章を書く力が身に付いてきています。
- 算数では、長い設問や、前の設問と連続した設問など、問題を把握するのに読解力を必要とする問題に課題が見られました。
- 正答数の分布がきれいな山形とならず、平均のやや下の層で2つ目のピークが見られます。中央値は全国、県と同様でした。児童の個々の学習到達度に合わせた課題や学習の取り組みが必要だと考えられます。

4 今回の結果を受けて

- 昨年度導入したタブレットのできるドリルを効果的に使い、漢字や語句、計算などの基礎的な知識の定着を図ります。また、朝学習の時間を活用していきます。
- 様々な教科で児童が主体的に学習に取り組み、対話を通して学習していくよう授業改善を行っていきます。
- 学習サポーターや学習ボランティアを活用して、個々の児童に合った支援や課題の提供に努めます。
- 読書や音読の励行を継続して行っていきます。

5 生活習慣や学習状況等に関する調査結果より

【特に顕著な項目について】

- 朝食や睡眠などの生活習慣の調査は、高い評価値でした。
 - ⇒健康や学力を支える基本的な部分ですので、今後もよろしくお願ひいたします。
- △「困りごとや不安があるときに学校に相談することができますか」の回答が全国と比べて低い結果となりました。
 - ⇒SOSの出し方教育や、教育相談の一層の充実、周知を行っていきます。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の回答が全国と比べて高くなりました。
 - ⇒主体的・対話的な学習への授業改善の成果が見られました。今後も継続して実施したり、様々な教科でも実施したりできるようにしていきます。
- 自己有用感、規範意識の回答は年々改善傾向であり、今年度は全国よりも高くなりました。
 - ⇒本校が力を入れている学級活動の授業研究や、わくわくタイムなどの異学年交流、特別支援学級との交流などに継続して取り組んでいきます。
- △家庭での学習時間が少ない、またはしていない児童の割合が多いです。
 - ⇒生活頑張り週間や家庭学習週間などを通して、家庭での学習習慣を刺激するような活動を行います。保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。